



〈今号の一枚〉

大阪体育大学浪商中学校・高等学校
イメージキャラクター「くまべろ」

「くまべろ」は、熊取町の森で生まれました。幸せの黄色い小鳥さんを相棒に、のんびりした姿ながらも、何事にもあきらめず一生懸命取り組むがんばり屋です。いつも生徒たちを応援している心優しい存在です。上記の写真は、高校1年生による文化祭展示作品の大きな「くまべろ」です。学校行事を盛り上げてくれました。



◀「くまべろ」紹介ページはこちら



学校法人浪商学園 学園報 ちぬ No.068 令和8年2月20日発行

発行者：学校法人浪商学園 経営企画部/発行責任者：野田達彦
〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
TEL 072-479-3111 FAX 072-453-8972
学園ホームページ：https://www.namishogakuen.jp/
印刷・製本：株式会社毎日新聞大阪センター

Osaka University of Health and Sport Sciences / OUHS Namisho Junior and Senior High School
Osaka Seiryō Junior High School and Senior High School / OUHS Namisho Kindergarten

浪商学園報

令和8年2月20日発行
学校法人浪商学園 学園報

CHINU



ちぬ

学園広報誌 ちぬ の由来

浪商学園に勤務する教職員の交流を図るために発行された学園広報誌「ちぬ」。
茨木時代は校舎前（現在の浪商幼稚園前）を流れる安威川より名を冠した「あいがわ」でしたが、熊取移転に伴い「ちぬ」と改められました。
「ちぬ（茅渚）」とは奈良時代から見える和泉地方の呼称。「古事記」神武天皇条にも見え、大阪湾を「ちぬの海」ともい、浪商中学校・高等学校、大阪青凌中学校・高等学校の校歌でも歌われています。

特集

大阪体育大学同窓会「摂泉会」

創立55周年記念式典、笑顔で盛大に開催！



設置校 Topics 2025

私にとっての SFGs

組織風土改革プロジェクト 令和7年度の取り組み

大阪体育大学同窓会「摂泉会」

創立55周年記念式典、笑顔で盛大に開催!

大阪体育大学同窓会「摂泉会」創立55周年記念式典が、10月25日、大阪市北区の帝国ホテル大阪で、来賓を含め約230名が一堂に会し、賑やかに、そして盛大に開催されました。

本来は50周年記念式典を予定していましたが、皆様ご存じの通り、コロナ禍により延期に。参加者からは「念願の再会が実現した」と喜びの声が聞かれる中、この度、55周年として開催する運びとなりました。

摂泉会（同窓会呼称）の名称は、大学開学の地である茨木市（北摂）と、現在の熊取町（泉州）が由来です。卒業生約2万5千人が登録されており、全国の各支部で精力的な活動を展開しています。

厳かに幕開けした記念式典

記念式典は、長家秀博同窓会会長の開式の言葉で厳かに幕開けしました。

続いて登壇した野田賢治理事長は、「全国各地で同窓会の皆さんが入学希望者をご紹介してくださり、有難く思っています。これからも同窓会の皆さんにはご協力いただき、大阪体育大学の発展にお力添えをいただけますようお願いいたします」と熱い期待を込めてあいさつされました。



神崎浩学長からは、開学当時の定員100名から、現在では大学院を含め7倍近くの675名に拡大したことに触れ、「これだけ多くの卒業生を世の中に送り出してこられたことは、大学最大の財産です。少子化で大変な時代ですが、建学の精神に立ち返り、絶えず変化を続ける意識を持って、学生、教職員が一丸となり大学を盛り上げていきます!」と力強い決意が述べられました。

さらに、同窓会活動の発展に長年尽力された役員や、各同窓会支部より推薦された卒業生の表彰式がおこなわれ、長家会長より感謝状と記念品が贈呈されました。受賞者たちの晴れやかな表情が印象的でした。

記念式典は、村田剛同窓会監事による閉会の辞をもって、第1部を終了しました。



当日、協力してくれた学生スタッフ

笑顔と活気に満ちた祝賀会! 卒業生の熱演に会場は大盛り上がり!

記念式典の後は、待ちに待った祝賀会です。

摂泉会の井上紀子副会長が「これからも皆さんお元気で、体大のためにお働きいただけますようお願いいたします」と開会の辞を述べ、松村新也同窓会顧問（1期生）による乾杯の発声で、笑顔あふれる歓談の時間に移りました。

会場のボルテージを上げた華麗なパフォーマンスの数々!

オープニングを飾ったのは、なぎなた部による鋭くも美しい演舞でした。「リズムなぎなた」は、我が国古来の武道である「なぎなた」を発展させ、音楽に合わせて技の美しさや躍動感を表現したものです。52年前、当時の初代師範・矢野恒先生が、初心者的大学生にも楽しく興味を持ってほしいという思いから考案されました。現在では、日本オリンピック委員会強化コーチとして日本代表選手への指導や、普及活動の一環として中学校の体育の授業などでも取り入れられています。当日は『新高砂・江戸の風』の曲目に合わせ、堂々とした演舞が披露されました。

次に、本校卒業生の市来崎大祐氏と、妻・直子氏と息子さんによる迫力満点の武術太極拳が披露され、会場は大きな歓声に包まれました。市来崎夫妻は、長年日本代表として世界を舞台に活躍してきた武術太極拳の名手です。大祐氏は、アジア大会で日本人初のメダル獲得という快挙を成し遂げた経歴を持ち、現在は全国の小学校巡回や競技の普及活動に尽力されています。一方、直子氏は国際大会での豊富な実績に加え、横浜中華街での長年の講師経験を活かし、現在は幅広い層への指導にあたっています。また途中には中国伝統芸能「変面」も披露。鮮やかなパフォーマンスで来場者の目を釘付けにしました。

そして、エアロビクスにトランポリンを取り入れた、視覚的にも楽しい「トランポ・ロビックス」も披露され、会場は終始大きな拍手と歓声に包まれました。「トランポ・ロビックス」は、全国への普及を目指して協会が設立され、今年で40周年を迎えます。2006年の「のじぎく兵庫国体」では、幼児から高齢者、障がいのある方まで850名が、開会式でエキシビションを披露しました。また、元イングランド代表のベッカム選手がリハビリにミニトランポリンを使用していたことでも注目を集め、現在では北は北海道から南は沖縄まで、20府県に1万人を超える愛好者と多くの指導者が誕生。中学校の保健体育の教科書に紹介されるなど、地域の健康づくりに大きく貢献しています。

久しぶりに再会した同窓生たちは、思い出話に花を咲かせ、体大ならではの熱気に満ちた賑やかなひとときを楽しみました。

最後は林憲治郎同窓会副会長よりあいさつがあり、大盛況のうちに記念すべき55周年式典・祝賀会は幕を閉じました。



Topics 2025



大阪体育大学（大学院・スポーツ科学部・教育学部）



式辞に込めた、新入生へのメッセージ

●第10代学長に神崎浩氏が就任

4月1日、第10代学長に神崎浩副学長が就任しました。神崎学長は40年にわたって本学に在籍しました。「建学の精神である『智・徳・体』を教育の柱に掲げ、社会に貢献する人材を輩出したい」としています。

●開学60周年事業を多彩に

1965年の創立から開学60周年を迎え、開学記念日の6月23日、学生手作りの「還暦誕生日パーティー」を開催。特設サイトの開設や記念ロゴの制定、「還暦職員」による座談会など多彩な記念行事が実施されました。



学生と祝う開学60周年



大阪体育大学浪商中学校・高等学校

●大阪体育大学浪商中学校体育祭

10月27日、昨年まですまいるズひまわりドームで実施していた体育祭を、今年度は学校の人工芝グラウンドで実施しました。人工芝グラウンドでは初の実施となり、生徒が中心になって、企画・運営を行っているので、例年と違う環境の中で苦勞することも多かったですが、しっかりと取り組んでくれ、とても盛り上がりました。



生徒の熱気が満ちる体育祭



全校生徒と記念撮影

●ミズノチームオーダーキャンペーン

日本を代表するトップスイマーの寺川綾さん、青木玲緒樹さん、池江璃花子さんの3選手がサプライズで登場しました。第1部のトークセッションでは、3選手の「高校時代」「夢を持つ大切さ」「諦めない心」「前向きな姿勢」などについて、心に響いたたくさんのメッセージをいただきました。第2部では、屋内プールで3選手から浪商中高水泳部員に直接指導していただきました。

●大阪府知事表敬訪問

令和7年度全国高等学校総合体育大会、第41回U20日本陸上競技選手権大会の優勝報告をさせていただきました。吉村知事より、お祝いのおことばと記念品をいただきました。



〈陸上部〉3年生 鈴木さん



〈レスリング部〉2年生 古澤さん



〈器械体操部〉1年生 藤原さん



大阪青凌中学校・高等学校



焼き芋を囲み学年をこえた学びの体験

●大地とつながり、未来を耕す「芋ほり」体験

中学部では「植物プロジェクト」の一環として、全学年で「芋ほり」を実施しています。苗から育て、大地に触れる実体験は、生命の尊さを伝え、生徒たちの本質的な成長を促します。全学年合同の活動では、上級生が下級生を導く縦の連携が芽生え、学びを深め合います。また、収穫した恵みを焼き芋として分かち合う時間は、豊かな食育の機会です。この経験は、中2民泊体験への心構えとしても機能し、生徒たちの社会性、主体性を育む基盤となります。

●地域との交流 Dream Fes

11月22日（土）にOsaka Seiryu Dream Fes'25を校内で開催しました。Dream Fesは、青凌生が地域のみなさまと交流する場として、昨年からはじめ、今年は200名を超える申込をいただきました。部活や、個人・グループによる活動成果（英語スピーチなど）の発表に加え、ゲームの模擬店・スポーツ体験、地元のフードの出店も企画しました。これからも地域からの信頼、ご支援を得られる学校をめざしてまいります。



地域とつながり、夢が広がる一日



大阪体育大学浪商幼稚園

●標準クラスプレスクール「さくらぐみ」スタート

新規事業として標準クラスの入園予定児を対象としたプレスクールを始めました。幼稚園の環境に慣れることや生活リズムを整えることを目的にしています。最初はおうちの方と別れるのが辛くて泣き声が大合唱になっていましたが、徐々に慣れ、お友だちとの関わりも生まれるようになってきました。本格的な幼稚園生活に向けて準備万端です。



お散歩ロープを持って幼稚園内をお散歩中



迅速かつ正確な安否確認を目指し研究中

●「みんな集まれ」訓練、バージョンアップ

昨年度より不審者侵入想定退避訓練を重ねています。ブラインドの訓練ですが今では全園児の退避完了まで40秒を切るようになりました。訓練の度に新たな課題が見つかりますので今後もブラッシュアップし、安心安全な幼稚園づくりを進めていきます。

●自然とふれあう収穫体験



丹精込めて育ててくださったみかんの味は格別です

年少は7月にブルーベリー摘みに出かけました。太陽の恵みを受けてたわわに実る初夏の味を口にしながら、収穫の楽しさを学びました。年中はみかんがりを実施しました。黄金色の実をねじりとり、皮を剥くと、さわやかな香りが広がります。その瞬間、子どもたちの表情はぱっと輝き、香りや味の違いに気づきながら、みかんを味わっていました。年長は、安威川ダムパークを見下ろす山の中腹で芋ほりを体験しました。畑にはトカゲやミミズもいて、土の中に多くの命が息づいていることに気づきます。スコップや手で芋を掘り出しながら、大地の恵みや、命のつながりを感じました。子どもの「明日」も、豊かに実りますように。

私にとってのSFGs

～職場の雰囲気は、日々の言葉から～

若い頃の私は、職場の雰囲気というものは、制度やルール、あるいは上に立つ人の力量で決まるものだと思っていました。しかし年齢を重ねるにつれ、それはもっと身近で、小さな積み重ねによって形づくられているのではないかと感じるようになりました。

それは、どんな言葉が交わされているか、そして、どんな表情が多いか、その日々の積み重ねに過ぎないのかもしれない。

そんな考えに触れるきっかけの一つが、小林正観さんの言葉でした。小林正観さんは、人間関係や生き方について長く語ってきた作家で、努力や成功を強く求めるのではなく、「がんばらない」「戦わない」「人を変えようとしなない」という、肩の力を抜いた姿勢を大切にされていた方です。

正観さんは、「人間関係を良くしようとしなくていい」と語っています。相手を変えようとした瞬間に、関係は重くなり、場の空気は硬くなる。その代わりに勧めているのが、感謝の言葉と、穏やかな表情でした。

職場では、「ありがとう」という言葉が省略されがちです。仕事なのだから、できて当たり前。そう思う気持ちも、正直よく分かります。けれど、「ありがとう」の一言で、場の空気が少し柔らかく瞬間が確かにあります。

正観さんは、「感謝は相手のためではなく、自分のために言うものです」とも語っています。感謝の言葉を口にした人自身の心が、先に軽くなるのです。

同じことは、笑顔にも言えます。無理に明るく振る舞う必要はありません。ただ、険しい表情のままでは、少しだけ口角を上げてみる。それだけで、「話しかけてもいい空気」が生まれることがあります。

また、物事の受け取り方も、職場の雰囲気に大きく影響します。正観さんは、「起きた出来事そのものに、良いも悪いもありません」と語っています。私たちが後から意味づけをしているだけなのだという考え方です。

同じ出来事でも、「問題が起きました」と受け取るか、「経験が一つ増えました」と受け取るかで、その後の空気は変わります。ポジティブに考えるというのは、無理に前向きになることではありません。物事を重くしすぎず、自分を必要以上に疲れさせないための姿勢だと思います。



役員という立場にいると、つい結果や正しさに目が向きがちですが、職場の空気を決めているのは、もっと日常的な言葉や表情なのだと、最近あらためて感じています。

職場の雰囲気を良くする特效薬はありません。けれど、感謝の言葉を一つ増やすこと、表情を少し柔らかくすること、出来事の受け取り方を軽くすること。その小さな積み重ねが、居心地の良い職場をつくっていくのだと思います。

人を変える必要はありません。まずは、自分の言葉と表情から。それが、職場の空気を整える、いちばん静かで確かな方法なのではないでしょうか。
(専務理事／法人本部長 福力 稔)



組織風土改革プロジェクト 令和7（2025）年度の取り組み

GUIDELINES FOR ACTION 今回の組織風土改革プロジェクトは、1年間の充電期間を経て、新たな5名体制で再スタートを切りました。活動期間は令和7年8月から令和8年度末までの約2年間を予定しています。

プロジェクトでは、事前に実施したアンケート結果および「SFGs」を基に活動方針を策定し、具体的な施策へと落とし込んでいます。関係する皆様にとってより良い職場環境の実現につながる取り組みとなるよう、丁寧に活動を進めてまいります。また、会議等に参加するメンバーの所属部署の皆様には、ご負担をおかけする場面もありますが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

引き続き、組織風土改革プロジェクトへのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
(経営企画部 野田 達彦)

令和7年度メンバーより

このたび、初めて応募メンバーとして参加させていただきました。現在、ノーマル残業dayメールにて、SFGsの取り組みを日々の業務の中で「自分たちに何ができるか」という形に引き寄せて発信しています。

その中には、「これなら私でもできそう」「これなら僕でもできる」と感じていただけることが、ひとつふたつあるのではないかと思います。毎週ひとつでも、できそうなことから取り組んでいただけたら幸いです。

そうした一人ひとりの小さな行動の積み重ねが、やがて組織全体の風土になっていくのだと考えています。皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

(大阪青凌中学校・高等学校事務室 青柳 一弥)

組織風土改革プロジェクトが発足してから、これまで多くの教職員の関わりの中で、さまざまな取り組みが重ねられてきました。変化は目立ちにくいものですが、日々の声かけや行動の積み重ねによって、風土は少しずつ、確実に育ってきていると感じています。風土は誰かが一方的につくるものではなく、その場にいる一人ひとりによって形づくられるものだと思います。

皆さんの声に耳を傾けながら、小さな気づきを共有できるような取り組みを続け、SFGsが目指す姿を意識しつつ、学園全体でより良い職場づくりにつなげていけたら嬉しいです。
(スポーツ局 岡田 郁也)



組織風土の変革に向けた取り組みが、まだまだ進んでいるとは思っていません。

組織風土改革プロジェクトの活動は、1年間のブランクがありました。改めてとなりますが、目的を明確にし、危機感だけでなく「こうなりたい」という未来像を共有することが必要と思っています。

まずは、弱みではなく強みに光を当て、小さな成功体験を積み重ねられる仕掛け作りをしていきたい。個々人が自発的に動ける環境を整え、個人の成熟度を少しずつ高めながら、組織全体が前向きに変化を続けられる状態にできるように活動していきたいと思っています。

(庶務部／学長室担当 佐藤 浩輔)

今年度より本プロジェクトに加わることとなりました。これまでの諸先輩方の積み重ねを大切に受け継ぎつつ、策定された「SFGs」を確固たる指針として、その浸透と具現化に貢献したいと考えています。

若手職員である私にできることは、掲げられた目標を自分たちの日常にどう落とし込めるか、柔軟な発想で挑戦し続けることだと考えています。既存の価値観を尊重しながらも、若い世代ならではの視点で「SFGs」の普及を後押しし、学園に新しい活力をもたらす架け橋になりたいと思います。

より働きやすい環境を実現できるよう、誠心誠意取り組んでまいります。皆様、ご指導とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(入試部 吉津 達也)

五十音順

